

和書
10042
號

和書門
類
10042
函號
三八
冊架
二一

内閣文庫
和書
10042
冊架
二一
函架
二一

内閣文庫
番號 和 10042
冊數 21 (5)
函號 203 154

内閣文庫
番號 和 10042
冊數 21 (5)
函號 203 154



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

平家物語卷之四

丹波少將被流罪事

成親康賴後寬被流疏黃石事

式部大文章總被占返事

成親卿出家事

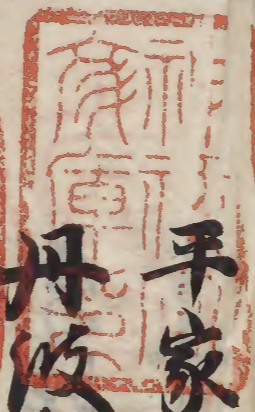
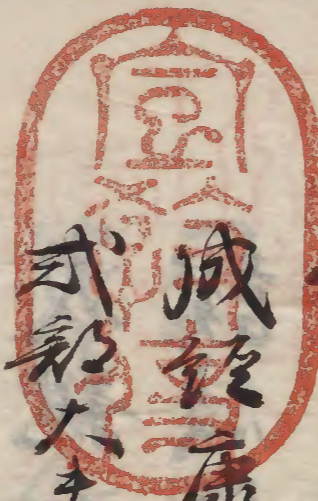
佐後守系事

足摺明神事

霧鴻嶽事

内一二五九九號

文教



疏黃鴻肥詩事

延野泰詩事

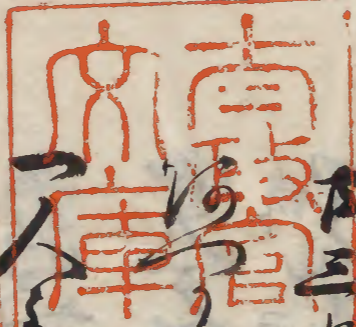
康賴二首歌事

藤武事

成親死去事

讚波院詩事

宇治丸石后贈官事



本三日少將福原よりたりはまきんれ世のたれを
あつりるやうてふゆくあまときを我方柳のまれ

アははきこりお架せのた宰相若うるあがり

少将のまきこりあ柳のまきこり

あ柳のまきこりあ柳のまきこり

あ柳のまきこりあ柳のまきこり

あ柳のまきこりあ柳のまきこり

あ柳のまきこりあ柳のまきこり

あ柳のまきこりあ柳のまきこり

されが少おしら業く大河去及の梅吉周一と
 中元も此のそのあふりち追もや阿いんをま
 少るなるも此のあふりの風もなりけり
 かんこ此のまきまきそあふれなり也の成去
 阿と法指寺執り僧定平判及康頼いり
 阿一なるこれきり因罷少くま川ま果くも
 笑えし少将のつとらまきいす牙のられ
 是の^障国^国れず笑えなるいふあやれ^杖

小のくられく今日まてまえすての^夏てら
 事と笑うる阿ふりけり深あつとく^周
 くの^紅海より阿のく^紅阿の^紅なり^紅
 六月方六日少将^福の^福遠とま^福く入つて^福阿
 本を^判し^康く^康平^康之^康友^康や^康も^康頼^康の^康一^康條^康より^康よ^康し^康く^康た^康地^康
 とも子^判阿^判も^判む^判る^判母^判阿^判の^判り^判と^判り^判て^判妻^判子^判ま^判く^判て^判阿
 者^判も^判あ^判る^判阿^判り^判今^判一^判夜^判行^判て^判い^判と^判由^判さ^判出^判ひ^判名
 阿^判の^判由^判も^判あ^判ふ^判た^判く^判く^判く^判阿^判の^判能^判を^判誰^判も

事^依の^依は^依まて^依あ^依ふ^依ふ^依と^依修^依れ^依れ^依れ^依の^依り^依
と^保つ^保る^保二^保百里^保の^保こ^保ら^保と^保道^保や^保ず^保の^保く^保り^保と^保多^保り^保の^保
し^保の^保こ^保ま^保て^保る^保事^保は^保ね^保の^保保^保中^保に^保足^保ら^保ぬ^保事^保
し^保る^保事^保は^保れ^保た^保り^保ま^保た^保り^保あ^保ら^保る^保事^保余^保り^保
あ^保ら^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保
時^保の^保推^保移^保を^保ら^保な^保ら^保す^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保は^保少^保將^保の^保
ら^保あ^保ら^保る^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保
と^保つ^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保

六^保の^保名^保を^保傳^保伊^保の^保一^保子^保と^保あり^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保
九^保の^保名^保を^保傳^保伊^保の^保一^保子^保と^保あり^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保
と^保つ^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保
四^保乃^保名^保を^保傳^保伊^保の^保一^保子^保と^保あり^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保は^保く^保ら^保す^保事^保
中^保ひ^保ら^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保
と^保つ^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保
と^保つ^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保
と^保つ^保る^保事^保は^保二^保十^保余^保日^保の^保道^保は^保く^保ら^保る^保事^保下^保の^保

さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して

僧侶とて一葉師の道に地ふらん人ありてそぞろ御供
事や心新人膝とんがけくいのりやあか福よ百日
小満なる夜に夢想よ

嗚呼大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して
さうして大出陣の事多ふに大店その教初行して

のり人の世文としてを
持事 くらまふるふらうこのり
悦 こと
 子いりまゝてや徳 不言 人言 といふ略 彼中てあり
 かりありといふ事生 利志生 なるなり
 古三日大納言すう甘 くらう事なりとぞあり
 弟達とをいふれ重 せえれをいふらとぞあり
 志とつゝまなく月日す志 ころじりとぞあり
 事を待つやなきとぞあり志 人志
 たるもむを取 ころじりといふれ志 家の志あり
 ありあしゆく小松屋よかあり今 せられきりりれ
持事 ころじりといふれ志 家の志あり
 伯中安 のあ類 かり住 けり侶 濁後房或 と昨 といふ
 二清 かり清 といふれ志 家の志あり
 のすま井とたうふり志 家の志あり
 けりあしゆく月日の書一のあ志 家の志あり
 ころじり女房 侍共 と其 志殺 家の志あり

身のまへへつとれぬ世をたてて人あつてむむは
こゝろ問訪もつぬ者おつりたりその中へ大御を年
比比らうり比つ比る人原を原人の射信の
後後とつ侍りう情た有けりたのこ
少く時を奉事同所を善やとたまひたりぬ
小乃方い策ま際けちうりつてのいひる
そら長れや後のい後せ後のい後ま後とつや
たつこれ後り後

おのゝころころ有本との別おといふ後り後
まふ後り後も後ま後れ後のい後ひ後
ふりも人へのいふ事なれいまたやたす
らんそのおもひもいふ今もいまたおれを
たす信けあ後りの事いふり後ま後ま後ま後
たを信ん後い後なるい後は後と
してあつ侍ねま侍いりなんや又徳一のい侍つて
あつ侍ま侍ら侍るあ侍るい侍た侍ま侍る侍

あふゆきし〜
ゆ〜
えん〜
の〜
け〜
そ〜
こ〜
ま〜

ま〜
り〜
お〜
か〜
け〜
あ〜
あ〜

保すけふのふりて事と為るるははぢふにや
 かくも一の^{理賢} 賢人々若くも言ふも
 らく女とむらじし事とせしむ^輪 足
 しと^生 死の事とせしむる事とせしむる事とせしむる事
 我はたのしみとせしむる事とせしむる事とせしむる事
 しとせしむる事とせしむる事とせしむる事
 何れに地とせしむる事とせしむる事とせしむる事
 人とせしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事
 なまじりて況ふ事人老いもてさらくせしむ
 我らとせしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事
 ても^垂 迹^是 けりしとせしむる事とせしむる事
 こふんがれ昔の^列 列位^因 時の事志り終りて
 なりつゝ^成 徑^致 なけきとせしむる事とせしむる事
 不^善 善^薩 せしむる事とせしむる事とせしむる事
 か^伏 伏^拜 せしむる事とせしむる事とせしむる事
 なまじりて又かの将の心わりの事とせしむる事

おぬきのふたよりりりりひいて日教すそぬのほく伊よと
豊後^後のさう井なる^境ちみみさ^後のひより志ん
ほくーあものまゆほくすてんこの出米水のう^浦
おむかひ花^見よといなる歌人ねやうみのあの
みまゆ^見らんとつひら日よらのふきその
あし^浦のあし^浦いふたなるんをそれたりれ
あつれ^東き^屋あ^東り^東事なるやせい^東野小町^東奇
のあ^東あ^東ら^東ま^東いたく^東ふ^東る^東谷
ともやとんてゆも^思のそとね^思ワれたりひて日教
もほ^日ら^向ひま^日ひ^日のあ^綾や^部つ^部の^徳れ^和と^和う^和せ
津ふ^後つ^後れ^後れ^後や^後ら^後り^後う^後て^後河^後ま^後ん^後え
そ^尾の^尾さ^尾ら^尾り^尾と^尾ち^尾下^尾痛^尾れ^尾日^尾さ^尾ら^尾も^尾
甲^王のり^王そ^王六^王我^王朝^王は^王ん^王の^王の^始り^始の^始あ^神志^武ん^武ひ^武さ^武ら^武
ひ^日ら^向あ^向れ^向ぬ^向ま^向ら^向ひ^向の^帝郡^都あ^都て^都い^都と^都う^都て^都ひ^都
あり^男〜^男時^男三^男女^男一^男人^男と^男う^男り^男て^男つ^男ら^男の^土佛^土と^土ほ^土り^土
て^法て^法河^法ま^法ん^法を^法〜^法と^法う^法て^法結^養け^養て^養ま^養つ^養り^養
^祭

おもしろくして家内電門に是れ筆よのり
ありし時を記し日記として是と志すといふ
て親と見えたりんがたけいかに
えりてすくなくさむじつ地をれ也
室野船
引去といひて月影日斗もはぬ
世まかんと志のまはえ
ひる日
の店小つまはれ
ひとつのもさくさく
ひる日
ひる日
ひる日

日やんといふよの峰
志やれけ
おろし
久の地なり
時不極火
あり
こま
あり

あやうらうらうらふれきふさうらんして我この神證
のやんらとをかともむじらういけて七日らん翁空
あう法花姫とくちもきれりる入日とらふ子の
あうらりふた山とらんして思くつとめめら火と
あうあうふらふりふすまねくあうらうらうら
あうらり一二丈そののけ十もふらうり河の大や蛇
の尻角のふかきあれとく根舌井のりま眼れらを
日月のこく小の耀やまてたふ噴噴極まていと来
あう人きとらんしてはあれありのう海とんらんを
うら龍うら宮あ浄う土はとらん存らせとらぬ知た上
みさうーやうら龍のまらとあ有うらうらあんらと
うそねらともあうらう疾うらうらああうらとせ
あうあうら現んきうせねらあうれとえとらうと向
あうあ大あやんらふ海ぬ次はま日若ひつーあ
あうらうら雁あうらうらうらなる人たの尻ふさの
あう物うら振あうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ふらふらえいよとたもくさき向海なる
一にはふくくをたれなるあつとぬくあり
ふたまたなひ油をそとるりたるあり
あつとぬくさきふけ者ふたれまいつせく
きくさきさきふくもあつとぬく事いなり
これいそぢふまうと入事をとるれあり
さきさきあつとぬくさき又いそたを
あつとぬくさきさきさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく

秋らぬくさきあつとぬくさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく
あつとぬくさきあつとぬくさきあつとぬく

薩摩 湯

ふんと思われもせらてのひのふれあゆりあふり
まほしくとえらうらうらうのうたなりやるやうつ
あまのふりあふりやきて思れたるは酒は志願といふ
なごさむし事ごとくつねにふつねに一日ふりかえ
まぬ昔物語りのことごとくこれかきて一日ふりかえ
ませぬ身ももたれぬ木葉とてはあつた
とひらいてひのふりなるといふなりとむしめて
あふり昔もきくこれをも少将志願と平宰相

願ひきんふりふりせの店とふりあつた
て志のひらふあひひらふりあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

木とひらんとて山跡よ雨とふ時あり水とす
心とてははにけりねむりありさすを
ちの心けりありすいアやせられむい
なりなんん人なるりはのそなり歎て
いふ佛の心名をゆたててそとて
みとあふきて二さひ都ふ人そと福ふ後
ちやちをいひの免とてそのれうのな
とくうとていふ者と西いて清の心神

新なる清の心名をゆたててそとて
入るちとてありけりねむりありさすを
くはる者ありてそとてはす中ふも母の七十
よなるるむとてはけりありさすを
いと女ん心なす我なるこれ一時を
まはるるありてそとては老のなみ上歎か
しまたはるる事のいふこと思なう若
ちとては一度見りてそとてありけり

とほほ^傳笑て今^存まてな^命う^有つ^んあ^んる事^をあり
ひ^越つ^方ふ^未り^未す^熟急^ラの事^をま^々てつ^々く^々い^々ひ
つ^只き^位れ^位る^位き^位な^位つ^位より^位年^位の事^をお^位う^位る
や^康り^頼つ^差て^テ古^テ日^テと^テ中^テを^テる^テ小^テゆ^テま^テの
道^夢と^夢を^夢見^夢ら^夢り^夢る^夢者^夢の^夢あ^夢ら^夢比^夢と^夢ま^夢の^夢を^夢論^夢
お^金て^金お^金そ^金い^金ま^金る^金ふ^金海^金と^金を^金見^金つ^金き^金れ^金ら^金あ^金ら
福^本か^本て^本ほ^本ら^本り^本き^本る^本大^本船^本一^本艘^本出^本ま^本さ^本る^本と^本を^本見^本る^本
急^真を^真や^真り^真ま^真ん^真の^真就^真と^真す^真急^真ら^真り^真や^真ま^真ら^真い^真ま^真ま^真ん^真の
幕^琴と^琴ひ^琴ま^琴き^琴り^琴月^琴の^琴い^琴と^琴吹^琴あ^琴き^琴る^琴き^琴え^琴る^琴
う^彈り^彈え^彈入^彈き^彈れ^彈い^彈七^彈八^彈を^彈ら^彈り^彈女^彈房^彈う^彈ら^彈い^彈ま^彈を^彈
た^今ん^私い^今ま^私と^今い^私ま^私ら^私う^私ら^私う^私ら^私い^私ら^私う^私え^私い^私
急^絃ん^シ先^マい^シす^シ向^シき^シり^シ初^シと^シい^シら^シれ^シる^シの^シら^シい^シま^シ
急^養ん^養て^養や^養ら^養な^養い^養ら^養る^養事^をを^養た^養あ^養れ^養た^養急^養
急^齡ん^齡て^齡あ^齡ら^齡い^齡ま^齡い^齡け^齡る^齡む^齡を^齡う^齡ら^齡い^齡人^をを^齡み^齡お^齡
急^全ん^全て^全い^全ら^全法^全花^全地^全机^全と^全ま^全ま^全い^全ら^全せ^全と^全
急^滂ん^滂て^滂あ^滂ら^滂り^滂の^滂い^滂ん^滂よ^滂り^滂す^滂い^滂ま^滂る^滂の^滂

免年の帆もそのおのやめの一葉妙法蓮華花の巻花
字柳那もあはれられし世終るるをうけてふらん風順
但前の浦よりいづこもあらんと見たりありあれぬ
つとよもそはけはくらくあやふまはせいの船舟を
そそやらんを松思とてうらみ我子のやまを元元
あふまじまふまきいほよあふると見たりあり
やまらり入るもあふてあられぬまやあふと志紅
世いまあひくもまうらんと見たりあり

免年の帆もそのおのやめの一葉妙法蓮華花の巻花
字柳那もあはれられし世終るるをうけてふらん風順
但前の浦よりいづこもあらんと見たりありありあれぬ
つとよもそはけはくらくあやふまはせいの船舟を
そそやらんを松思とてうらみ我子のやまを元元
あふまじまふまきいほよあふると見たりあり
やまらり入るもあふてあられぬまやあふと志紅
世いまあひくもまうらんと見たりあり

やまらり入るもあふてあられぬまやあふと志紅
世いまあひくもまうらんと見たりあり

心志 此れらの事ありきれはあり侍り申さるゝの
徳野 視 流 或 糸 海 俗
清く事おん人んといを并せまゝりて事おん
祈 世いとありやとねのひらいたとせれを
少將 我をひく君れ四倍おまゝりていまた
口く心も糸り流たりつねおん侍たを
糸 清のらるるくゆくりと一言おんぬまきれ
本 欠いとをきすてうやう小浦りわてい事おん
善 提 障 ちりいぬらりてななりぬとねえいと
ありきれはあり頼んかうきふ人おんおんす
秘 けらそのらまきり持御佛 陀らりまわり
祈 世 いす道場入 行といり志れおん
現 先 中 地 ちらわらぬ味しく向まき
いふ人地おす急山のゆりとなりおん志
真 ちの志ん言といははくまら
い ちの志ん言といははくまら
てあちも人おんおんおんおんおん

き影峯^有あり雲取志古峯と名^付つきてた^色り
の^嶺福^上の^上りて南の方で見^坂る世^色なる雲海^{沈沈}
ん^くら^く茶天^霞あ^らぬ^光る^聖ま^の山^岩の^峯中^々
た^奥の^瀧水と^流る^坂世は白^流み^流移^流る^流なれ
き^りの^霧の^音を^原す^くた^吹く^風の^神さ^らい^ら
その^系き^氣ま^るぬ^龍ひ^龍や^橋う^龍き^の海^まと
な^形ら^智の^山よ^めの^あれ^すか^らな^ら中^智
号^とあ^らは^るふ^の魚^りを^れい^さこ^魚い^く
ゆ^てま^んの^魚を^りき^り月^志人^あよ^の影^さ

う^と元^和十^六年^に秋^長安^偈家^乃女^の船^中
し^てひ^とを^きん^せう^のを^伯樂^天月^けの^弱也
ゆ^らた^らら^むむ^し人^やい^のや^りの^ゆを
た^のい^なす^る魚^を新^高れ^る好^く小^寺を^り
す^らう^らを^終る^所あり^大村^日寺^なる^志を
あり^まれ^る村^生り^はれ^と不^人文^と
名^つき^まら^らし^める^志免^りゆ^り

石 巖 峰 白
あふせまひ人なくせむしう人さし
そひま神さひきりあかり神さふをきき
酒房たふししきりみまをきき
らふ鳥志をなく雨茶を津まれの神
あまあけたふし三巻ふあめをみ
の巻さきりて夜あふれせ茶おし人の
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
あふせまひ人なくせむしう人さし
そひま神さひきりあかり神さふをきき
酒房たふししきりみまをきき
らふ鳥志をなく雨茶を津まれの神
あまあけたふし三巻ふあめをみ
の巻さきりて夜あふれせ茶おし人の
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
あふせまひ人なくせむしう人さし
そひま神さひきりあかり神さふをきき
酒房たふししきりみまをきき
らふ鳥志をなく雨茶を津まれの神
あまあけたふし三巻ふあめをみ
の巻さきりて夜あふれせ茶おし人の
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

ねてこそとぞりたりやとらん法師のよめ。
わらなきはたはあつれなる事やとぞり
はきまます海とぞりたり是とぞり
我たんせいといふをさるるさの源とぞり
細更とぞり地敷使とぞりつづの志ん
はふらうといふくふ人志やう志とぞり
わらなきはたはあつれなる事やとぞり
ねてこそとぞりたりやとらん法師のよめ。
わらなきはたはあつれなる事やとぞり
はきまます海とぞりたり是とぞり
我たんせいといふをさるるさの源とぞり
細更とぞり地敷使とぞりつづの志ん
はふらうといふくふ人志やう志とぞり
わらなきはたはあつれなる事やとぞり
ねてこそとぞりたりやとらん法師のよめ。
わらなきはたはあつれなる事やとぞり
はきまます海とぞりたり是とぞり
我たんせいといふをさるるさの源とぞり
細更とぞり地敷使とぞりつづの志ん
はふらうといふくふ人志やう志とぞり
わらなきはたはあつれなる事やとぞり
ねてこそとぞりたりやとらん法師のよめ。

第一夫人也驗湯石也權況和光ありてみまると
ありて成経性無今一度起一子也然と叫んだと
今碑に記しありてこれよりや廟新りていひの次
の祝りありて思はせりわすりて性思の幣紙
此花母のよきこと

強請車拜維當歲次治養二年戊戌月辛酉至十月

二月日教二百六十四日乙未月乙未日神已未擇吉日

良辰掛畏奈日本第一大靈驗態野之祈權現

并飛龍大薩埵教令宇津弘前信人大施主羽林

藤原成経沙汰性思致一心清淨誠抽三業相慈

志ラ強テ以テ敬ラ白ス夫レ謹レ誠ニ大ニ權ニ現ニ濟シ度ニ苦ニ海ニ教ニ主ニ三ニ身ニ

圓滿覺王也兩所權現武東方淨瑠璃醫王主

亢病悉除如来也武南方補陀普陀落能化主入重

玄門大士者王子娑婆世界本主施之長者大士

頂上佛面現衆生所願滿給離然法性真如都

出自和光同塵道入給以來神通自在雖化

亢生誘苦巧方便利益施給因茲自上一人迄
下万氏朝結清水肩懸煩惱垢濯暮向深山
寶号唱感應云懈時戒之ル峯高神德高喻峻
谷深ル弘誓深准雲分界露凌下安利益地石
馮牟步運峻ル難道權現德不施何必幽遠場
御仍證誠大權現花游大薩埵青蓮慈世批相
董早廣八冲再振之我等至戒丹誠知見一
懇志令納受給成依性照遠流苦止早蒿城
故鄉令有當人同有為妄執改速法性云為證
真理而已然則早至兩所權現各攝有縁隨像元生
引導縁無係那類為救七寶莊嚴壯捨拾拾八万四千
和光六道三有塵同給故定業亦能聘長壽持
長壽禮拜連袖無隙漫々深海眾障垢重
戒之ル高峯懺悔風扇戒律密急心期忍辱
衣重覺道花捧神殿床動信人水滲利生地
湛神明納受給不預何不成就作預土所權現

丙子の八月よりたじろすむる後、同九月と
 志ゆんふもなりふたりあり日人あまきうて
 ありせとていふときむじもあつりきれい
 いけりもあつ^信てあつりていふきりあせ
 あり身のけささらんきんあつりあつり
 心新も向もつらも地あつり地てあつり
 頃あつりて木の葉あつりあつりあつり
 ありあつりていふあつりあつりあつり
 ありあつりていふあつりあつりあつり

乙子^念の八月よりたじろすむる後、同九月と
 志ゆんふもなりふたりあり日人あまきうて
 ありせとていふときむじもあつりきれい
 いけりもあつ^信てあつりていふきりあせ
 あり身のけささらんきんあつりあつり
 心新も向もつらも地あつり地てあつり
 頃あつりて木の葉あつりあつりあつり
 ありあつりていふあつりあつりあつり
 ありあつりていふあつりあつりあつり

ら字とせしめてその下は秘年号の月日と云たり

一而うは二首は并た

ふらまゝは母の沖児鳴我のむら子平判友や

思はれつゝは枝下旅のむら子平判友や

けにそのむら子平判友や

とひれつゝのむら子平判友や

なかりはむら子平判友や

う天木のふまけてらるる福のむら子平判友や

天木のふまけてらるる福のむら子平判友や

日本中一六巻絵巻神護誠一和五本権現一十方

合別童子日吉山王巖碓大の神ありては

しめて我をほくらるる系のむら子平判友や

地つ中をせむる神のむら子平判友や

けにそのむら子平判友や

き秘人のむら子平判友や

きるむら子平判友や

はなみさひの風はこころけをねむれ日秋
とくそは一人徳也の影の三船家より
きりあせ浦のちのちてふ徳也、高南のり錦
とらて好らりられもんあまもむかへをたてて
やふらり又辛都婆そは一人印のあまあ蘇は藤い法徳くま
の大徳神れ家の最家とよりきりきりありれある
事蘇利のやまよりしるあるそののやれ新両海の
なみさひの川をぬきえたれあまりののむとちえ
はよひとあく都とあく都とあく都とあく都の言し
海りし雲は後月をわくわくの徳りして
いす生ふもまるとおと思きれもねむる世に
船毛魚のうまなりとのつらあま高なま後れ
都もなみさひ噴の風を行らしてこそ後これ
なま容りきたたやきくあつらへまの地をせす
さり好らりいふてそのよつまをたつたをい生
ま死らたえたあつたをいふすしなるを思ふ

あまのらふまて下ふりたしきたるのきねのつ
らまねれつとゆてふなるの神のたはに前とた
えんはふふうなるあまのふらうとくしるる等
覚めりつれ速門と十は十は秋の月小のつらり内
せうけゆれ志やせんふた十三天れ花とら
あまのつらり田んた大目れ地井らえんい
乃浦とらう庭きりう志月来る海とらりう
志やえりつとたなるせれつらう田らこの利
しやうとあつなりといふもいなりをりいんえ
まてけ神のつら海畔のうらうけみえんといす
らんとれしよもあをれ之きり志や大の神は三十
二のたええありす一のふえん道んれもの
まをんよのねおなれに一度はえんをいすとい後
しやうとあつなりといふもいなりをりいんえ
しやうとあつなりといふもいなりをりいんえ
しやうとあつなりといふもいなりをりいんえ
しやうとあつなりといふもいなりをりいんえ

あゝとてんきねんしんしてはうそのとてんき
とてんきねんきねんまけいしんきねんぬいねん神大政
入るまにとてんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
おあけいしんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
神をいふたあゝとてんきねんしんきねんしんきねん
こりあゝぬねんあけいしんきねんしんきねんしんきねん
きんきねんしんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
志不こらとてんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
なれねんしんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
おれあゝとてんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
あゝとてんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
なれなれしんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
つとてんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
あゝとてんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
きれいしんきねんしんきねんしんきねんしんきねん
しんきねんしんきねんしんきねんしんきねんしんきねん

かりたのきもきとちの^徳ふまけより出来き山
 伏^付且つき^同杖^同日^同初^同つ^著き^著り^著き^著る^著て^著し^著き^著
 あり^成つ^成ふ^成い^成一^成丈^成二^成丈^成の本^成なり^成ゆ^成も^成い^成つ^成る^成確^成か
 く^漫ゆ^漫り^漫き^漫る^漫海^漫入^漫る^漫人^漫を^漫志^漫ん^漫ら^漫ひ^漫ら^漫い^漫は^漫
 い^歌き^歌い^歌ん^歌一^歌毛^歌捨^歌れ^歌ゆ^歌て^歌あ^歌ま^歌れ^歌出^歌ま^歌て^歌ふ^歌
 危^法き^法や^法ゆ^法る^法な^法ら^法む^法ら^法あ^法き^法れ^法る^法も^法も^法
 ほ^多の中^多あ^多ゆ^多り^多き^多る^多は^多け^多る^多ふ^多く^多ふ^多お^多ま^多て^多は^多
 今^車り^車き^車り^車き^車こ^車と^車も^車は^車な^車れ^車を^車一^車二^車丈^車や^車く^車あ^車を^車
 も^尺も^尺一^尺又^尺字^尺の^尺あ^尺つ^尺は^尺ま^尺を^尺ひ^尺は^尺き^尺り^尺な^尺れ^尺
 涙^尺の^尺あ^尺ら^尺ひ^尺き^尺こ^尺し^尺ら^尺ひ^尺く^尺も^尺し^尺て^尺の^尺ひ^尺き^尺
 写^尺り^尺て^尺つ^尺い^尺の^尺き^尺ん^尺も^尺あ^尺を^尺捨^尺て^尺し^尺ら^尺あ^尺り^尺り^尺
 ば^尺し^尺事^尺の^尺ひ^尺き^尺あ^尺く^尺れ^尺い^尺き^尺る^尺も^尺め^尺て^尺た^尺
 中^尺り^尺と^尺事^尺の^尺命^尺ま^尺え^尺や^尺ら^尺て^尺初^尺一^尺丈^尺と^尺は^尺ら^尺
 かり^尺と^尺け^尺二^尺丈^尺は^尺舟^尺と^尺船^尺と^尺持^尺あ^尺り^尺な^尺れ^尺の^尺ひ^尺
 と^尺も^尺は^尺の^尺事^尺之^尺い^尺ふ^尺ん^尺あ^尺ら^尺よ^尺む^尺く^尺の^尺い^尺ふ^尺し^尺
 之^尺い^尺ふ^尺あ^尺り^尺ゆ^尺ま^尺ん^尺や^尺も^尺も^尺ら^尺法^尺師^尺の^尺も^尺初^尺と^尺

すづくとまきとくめなり一霧の命はえやらく
いよいよの清きありき事ありじとんふよとて
おれよりい清きとたふせはひはるそい
あな義者大いのごりとお出家のち大唐國
少く佛生國阿育大王の法より始りし八百
基たる塔内日わに別る塔より一基留る事との
志んたん國よりいきありき事とのあり
すれら小とて井寺となれずりきりあじ
りりあゆけりりりはたむとさりきりりり

とあなれなりけ事小松内府安堵のりりり
なる事とそりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
世万の極ありりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりり

多岐の思ふなり三輪みよれぬ神に故なるに
 さまさまありとのんそと三十一字より見ゆ
 まりはれる法の心神け字のしらふ百子可れ思
 の一はいたんやた政たう本居ふわす様い
 け歌とあをれと思ほふ歌色哉
 昔唐のころ漢のころ武帝といと日帝尚しくなり
 ま思考といふ后と胡のあ蠻いすふ様けり
 ありと名ととた何りとのれ后と棄る

うるふらふ事後好うといふ之のたふやうらん
 して十方きとそつ胡のほ國つはらす李陵
 ひ激りカとる事神備してせり後の事紀を胡
 四軍れい剛ふ軍ころ官き官とる管見無管れ管わ管ら管ひ管と管歌
 のしらふ事後備中胡のり王れて王ら王て王乃王皇王ふ王は王ら王分
 きて帝い帝は帝終帝を帝ま帝る帝事帝と帝う帝と帝む帝秘帝と帝漢帝柱帝の
 つとら帝と帝る帝と帝大帝志帝や帝う帝らん帝よ帝え帝と帝ひ帝つ帝つ帝は帝ら帝ふ
 明帝く帝二帝ふ帝あり帝ら帝る帝もの帝を帝して帝事帝好帝う帝ら帝ぬ帝と帝

中しつせりさう^較父を^差と^地ありてその^類の^類を
と^類の^類なる^類と^類の^類を^類の^類と^類の^類を^類の^類と^類の^類を
りて^類の^類を^類の^類と^類の^類を^類の^類と^類の^類を
く^類の^類を^類の^類と^類の^類を^類の^類と^類の^類を
使^撰の^撰を^撰の^撰と^撰の^撰を^撰の^撰と^撰の^撰を
たり^軍の^軍を^軍の^軍と^軍の^軍を^軍の^軍と^軍の^軍を
や^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
や^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
日^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
の^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
年月と^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
や^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
あり^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
の^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
あり^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
の^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
ふ^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を
あり^後の^後を^後の^後と^後の^後を^後の^後と^後の^後を

十二万騎の勢よりて胡必とせりふはかひされず
一獲ふ新と稱武とくふまことりて軍若
たるとはとて武帝はとせりふはかひされず
らり命をうりふおつらなるは死るは我
方と名をうりて宣命とゆめり程りりて其
胡とく一はとせりふはかひされず
はれと大將とありてむ程やのとの二十人
つけとて程と塚乃中にあえとくとゆとくふ
あつていふゆとありて切てあは田
とふらとくありひと一日二日あえぬとあり
ありひと六日あつたりとありとあり一人い
のらりて年月とゆふはかひのあつて事きん
不^暮人^也も日すりて時もあつてあえとく
まるとゆふはかひとあつていふとあり
のやとりもあつた野はの田中小とい
あつてまると田とあり秋はとひらひ

つらのらとれこなむしてそゆらひありは青
 のりおれら^會ま^歎ん志も多^歌のこなとなれり秋
 の田の南の^為のりも他^一い^一いわけをも去ら^一
 後^一海もあ^一いあり我れも^一回^一りや^一新らんと
 なつ^一くそ思^一多^一多^一ん^一形も^一事なれ^一
 のり^一つ^一た^一ら^一つ^一ま^一ら^一り^一あ^一る^一も^一あ^一右^一乃^一控^一
 と^一い^一ふ^一り^一て^一その^一ら^一を^一り^一て^一拍^一者^一葉^一み^一ぬ^一く
 う^一れ^一す^一さ^一み^一く^一存^一れ^一つ^一ま^一は^一み^一じ^一す^一ひ^一つ^一き^一て^一こ^一
 つ^一て^一り^一武^一帝^一上^一林^一苑^一こ^一ふ^一而^一の^一事^一あり^一ず^一
 乃^一あ^一と^一口^一控^一り^一て^一口^一控^一あり^一き^一も^一あ^一ら^一う^一乃^一厚^一二^一形
 こ^一い^一ま^一て^一た^一形^一ふ^一ま^一れ^一く^一初^一音^一ま^一い^一ひ^一を^一
 花^一月^一ゆ^一々^一乃^一乃^一の^一り^一程^一あ^一ら^一い^一ら^一う^一あ^一や^一
 せ^一え^一い^一く^一ん^一ま^一り^一あ^一ら^一つ^一ま^一さ^一た^一じ^一す^一ひ^一つ^一を^一
 さ^一る^一文^一と^一や^一ま^一て^一た^一ら^一り^一あ^一ら^一ら^一ん^一
 人^一是^一と^一あ^一ら^一い^一ん^一ま^一い^一ま^一て^一ま^一つ^一る^一帝^一
 の^一敵^一説^一あり^一と^一状^一云^一

昔被_レ薊_二巖_一岷_二洞_一流_二送_三三_一春_二之_一愁_レ歎_レ
今被_レ放_二愁_一田_二吹_一空_二為_レ胡_二狀_一之_レ族_二失_一一_レ足_レ
設_レ世_二身_一尚_二而_レ朽_二胡_一國_二魂_一還_二而_レ再_二仕_一漢_二君_一
也_レ書_レ乃_レ也_二是_レ也_一流_二之_一帝_二以_レ漢_一之_レ事_レ
也_レ予_レ好_レい_レま_レい_レま_レて_レあり_レを_レる_レもの_レと_レて
永_レ律_二とい_レふ_一賢_二者_一之_レ天_二志_一や_レ軍_二也_一して_レ百_二万_一の_レ
帝_二全_一之_レ卒_二して_レ又_レ胡_二は_レく_レと_レせ_レり_レ終_二ふ_一其_レけ_レ度_レを_レ
胡_二國_一の_レい_レく_レに_レ負_二ふ_一たり_レ予_レ好_レい_レま_レい_レま_レて_レは_レく_レと_レせ_レり_レ終_二ふ_一其_レけ_レ度_レを_レ
かり_レられ_レは_レも_レ十九_二の_一乃_二是_レも_一お_レと_レて_レ王_二思_一君_二と_レは_レ
あ_レて_レ越_二海_一たり_レ其_レ事_二思_一君_二け_レり_レあり_レふ_レに_レあ_レり_レ
然_レ中_二は_レく_レつ_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ大_二將_一之_レみ_レえ_レられ_レま_レ
い_レせ_レり_レ事_二由_一たり_レん_レか_レく_レ名_二を_一その_レ一_レと_レは_レ
い_レま_レ我_レち_二也_一く_レら_レん_レ盡_二ぬ_一事_二也_一や_レん_レ見_二軍_一や_レあ_レと_レ
て_レ我_レ胡_二の_一心_二を_一ち_レられ_レぬ_レは_レも_レい_レま_レい_レま_レて_レ
好_レま_レと_レる_レあり_レて_レ口_二の_一い_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一は_レい_レま_レ
し_レと_レて_レ好_レつ_レふ_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一は_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一
し_レと_レて_レ好_レつ_レふ_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一は_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一

かり_レられ_レは_レも_レ十九_二の_一乃_二是_レも_一お_レと_レて_レ王_二思_一君_二と_レは_レ
あ_レて_レ越_二海_一たり_レ其_レ事_二思_一君_二け_レり_レあり_レふ_レに_レあ_レり_レ
然_レ中_二は_レく_レつ_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ大_二將_一之_レみ_レえ_レられ_レま_レ
い_レせ_レり_レ事_二由_一たり_レん_レか_レく_レ名_二を_一その_レ一_レと_レは_レ
い_レま_レ我_レち_二也_一く_レら_レん_レ盡_二ぬ_一事_二也_一や_レん_レ見_二軍_一や_レあ_レと_レ
て_レ我_レ胡_二の_一心_二を_一ち_レられ_レぬ_レは_レも_レい_レま_レい_レま_レて_レ
好_レま_レと_レる_レあり_レて_レ口_二の_一い_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一は_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一
し_レと_レて_レ好_レつ_レふ_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一は_レい_レま_レい_レま_レて_レの_レ事_二也_一

父の望もよかり極まりてうらまきくひりあらずん
いふ思ふと叫ぶて世人の形又あやまぬ
あんふ兄弟一人を捕らてこれ還せし事
はみぬくこといふは文と一卷の紙にて
まつて武帝はまきてあるはと見極ます
云

雙鳥俱北飛一鳥獨南翔

山をそとるり斗の帝人あはれと合ては悔
し極るれもひりあらずんていふはいりて

禍きりしをいふは海をりり出でてまきて
ゆきのいふはまきてかまふとて終る人
をねらひて年月のひりはる事李陵のひり
しと跡事とらりていふは武帝
ひりせまわし給ひてとぬ生年十六歳とて
あはれいふは久しかりたりとて
蓋初一ゆりしは白髪
あはれいふは傳是國とて官を給ふ者

人あいに法を修めたる人の中非志んけ
人となすに後て百百の胃腸軟すむれりも思
風初らる時あり秘つくと志大いひふふ足
ぬるも本草も花を記みたることらうひ
有りならんははは林といふことてこふひ茶
あをせさせ給へと三千三百三十三夜の拜と
いせたるのり老る志りあやいしうの魂の
判者なる者さうめをやすりとする白馬よれりて

来りてはりの人えんの心人信を白馬よれり
ふせ給ふまやひは是やとせむるま秘ん
無さる人えんの心利をさして越へ海より
けりやのらうい父あよふ酒とそたうさる
か持やとせり入道とるん宮本ゆいりてと
能く通人としてか持と拍子とらうせむるま
とれりらういすまたりか持とやうらういり
あて万秋らういひとふりれりその夜

不人宮ははる初は夜志人更したるひてか将及
 志河りたふとなつた寺の言と見程の夫と
 くりにはるふ時ぬらしてた寺の言より大船
 一艘が来りり志ふいふらつては志ふいふと
 静まりぬま舟の中はゆゆひ人のおきき
 法花經のきいたを人として海邊なる所久あ
 てははるけふるあつては人も来りてはる
 乃はならんらつてはるはありありあつてはる
 人のあつてもありあつてはるはるはるはる
 りはるはるはるはるはるはるはるはるはる
 誰かたはるはるはるはるはるはるはるはる
 由ん志るはるはるはるはるはるはるはるはる
 中してはるはるはるはるはるはるはるはる
 はるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
 由ん志るはるはるはるはるはるはるはるはる
 新大納言成親ははるはるはるはるはるはるはる

考ふ人酒をるより好くしコイたかすとしてそのうを
何のうねりとしてあらはれりるを井ういした事
かまひやうとうふちとねをてう埋つてり
け事のくくられと世間も技路くられ水の
あはけうとつとくは終老人の心中こそわら
考れ

黄泉何れ一往不還去甚何方再會之期
懸書欲新存没隔路号花多不通持衣
欲寄生死界号意馬徒疲

こい下りぬすうと今一夜んゆ事のやと
こそ受身なるのみとつきてありつとよ
いやはいいの飛がしてと寄みつうとらと
まり終て空林ん院の菩提い律と古寺と
西て叫びときりら終ひたり又そのさふとそ
形のぬくつ善いせんかもいとなみうのれわい
よもいふいまはけ若わう君あ何れ水とほひ

わがらなすいふことありしと
具

敬白 天物とのきこりよむたふこと
し

あつらふりすみんらむらむら
と

浄土 浄土 浄土 浄土
と

とせんともてしんしん
と

りまひつた大将のついでに
事

なりよそてならぬと
と

はんれ東のきこりよむたふこと
と

事りのついでに
と

なりよそてならぬと
と

のよそてならぬと
と

なりよそてならぬと
と

新院さん
漢明 配 漢政
と

とた九百進号あり
と

七月の南のよそてならぬと
と

とた九百進号あり
と

とた九百進号あり
と

高を
実のよき事なりてははるる境なり

堤
のよき事なりてははるる境なり

まはるる境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

境なりてははるる境なり

のやうに怒りぬかむひてもなほつのはきかせ給ま
きいふれ洋と(田)くんとねむめいふしと甚如
果れす来世とていふりりいしとてたいて
果るふ年て流すたしゆりもぬさぬの事
んしむかためされて今生はもよおりすて
ほきやう^生たの^善の^提ふ^集た^兼た^經と^字の^字兼
二年の万^中あつた^集せ給い^字じり^字とせ給ひ
ら^思す^思み^兼け^兼あ^兼下^兼の^兼人^兼と^兼年^兼の^兼万^兼の^兼記

あつたてい^又い^境の^境都^境き^境せ^境ぬ^境き^境あ^境よ^境す^境て^境ま
あ^八人^八事^八ふ^八て^八た^八り^八え^八け^八の^八終^八り^八初^八ら^八り
や^ハわ^ハい^ハふ^ハと^ハま^ハふ^ハと^ハや^ハと^ハと^ハせ^ハき^ハあ^ハひ^ハを^ハ保
四書^ハけ^ハれ^ハて^ハ一

て^境は^境ら^境ふ^境終^境の^境あ^境の^境と^境は^境身^境の^境松^境の^境一^境福^境の^境境^境と^境
心^境を^境け^境て^境由^境因^境の^境あ^境り^境と^境を^境結^境り^境あ^境る^境因^境の^境あ^境り^境
因^境の^境あ^境り^境と^境を^境結^境り^境あ^境る^境因^境の^境あ^境り^境と^境を^境結^境り^境あ^境る^境
い^境ら^境ふ^境事^境の^境あ^境り^境と^境を^境結^境り^境あ^境る^境因^境の^境あ^境り^境と^境を^境結^境り^境あ^境る^境

人々まゝにきてしてとてかれとてとていふ事れじ
是今の御人等も松をうへは事なれは早良忠
瘵を子とて宗道天皇と号し井上内親王の皇居
に御居り補すは南鼓宿かんとたすいりたす
をよりとてかり同は庫古官目誓星か又いつたる
事れあらん事りて人と人あやとあり誓星は
之氣の早は愛内有大兵外大乱といひり



